

第 1 2 7 回 経営協議会議事録	
日 時	令和 7 年 3 月 21 日（水）14 時 00 分～15 時 40 分
場 所	和歌山大学南 1 号館（事務局棟）3 階共通会議室
出席者	本山学長 島委員、清水委員、関委員、築野委員、松田委員、宮下委員 添田、野村、松本、岩田、山形 各理事 （福田監事、内川監事、田川学部長、金川学部長、佐々木観光学部評議員、 南方副理事、小田企画課長、金谷人事労務課長、櫻井財務課長）
欠席者	前委員、矢倉委員
学長から、第 1 2 5 回（令和 6 年 11 月 20 日）及び第 1 2 6 回（メール審議）の議 事録について確認があった。	
議 題：	
1.	令和 7 年度当初予算（案）について
	松本理事から、資料に基づき説明があり、審議の結果了承した。
（主な質疑や意見）	
	・ 特許権経費は他大学と比べ多いのか。
	→他大学との比較は行っていないが、特許の多い分野（医学等）が本学には 少ないと考える。だが、システム工学部や教育学部の教員の一部が特許の 件数を多くはないが出している。
	・ 科研費獲得額・件数が少ないが、今後どのように改善する予定か。
	→外部機関を入れて申請書の精度を高めるなど、採択率を上げるための努力 はしているところ。今後は、採択の可能性が高い教員を集中的にサポート していこうと考えている。
	・ 若手教員数が少ない。組織の新陳代謝が進んでおらず硬直化しているのでは ないか。
	→退職者の補充を計画的に行っており、新規採用する者は必ず講師などの若 手を採るようにしている。今は新規採用のうち半数以上が 30 歳代の若手で あり、今後若手教員比率は上がっていく予定。
	・ 科研費の獲得について、URA による支援など全学的なサポートが有効と考えら れるかどうか。
	→URA を配置し力を入れている。重要なのはいかに教員をエンカレッジするか であり、例えば科研費の基盤研究 C をコンスタントに獲得する教員が、次は

基盤研究Bで採択されるように戦略を考えているところ。
・新たに力を入れようとしている研究はあるか。
→ロボティクス分野に力を入れている。人材育成のために若手教員をリーダーに据えチームで取り組み、将来的には大型の科研費獲得を目標にしている。
・研究業績数の順位は高いが、科研費の順位は低い。予算やマンパワーが限られている中で、地域連携など様々なことに取り組むのは大変だと思うが、研究はやはり大学の基本なので、和歌山大学としての戦略が重要だと考える。現在、分析し検討しているところだと思うが、できることを工夫しながら実行に移していただきたい。
・図書館の経費が多すぎるのではないか。
→人件費と、電子ジャーナルの円安による高騰の影響が大きいですが、本学の規模から考えると経費が多すぎるという訳ではない。また、蔵書の管理にも経費がかかるので、今後はさらに予算を投入して、リポジトリ化を進めていかなければならないと考えている。
・センターがたくさんあるが、大学の戦略に応じた予算配分が必要だと考える。見直し等を行わないのか。
→地域連携プラットフォームを推進するにあたり紀伊半島価値共創基幹の見直しを行ったり、データ・インテリジェンス教育研究部門をセンター化したり、戦略に応じた見直しを随時進めている。
・どの分野での共同研究が多いか。
→分野の偏りはなく、各教員が強みを活かして地域にどう貢献できるか考えながら、研究コーディネーターを中心に共同研究を進めている。
報 告：
1. 令和5事業年度における剰余金の翌事業年度への繰越承認について 松本理事から、資料に基づき説明があった。
2. 戦略情報室データサイト公表について 満田戦略情報室長から、資料に基づき説明があった。
その他：
1. 令和7年2月21日の中央教育審議会の答申及びわかやま地域連携推進プラットフォームについて 小田企画課長から、資料に基づき説明があった。
以 上